

# 概 要

## 1 福井県総人口

本県の総人口は、平成 14 年 10 月 1 日現在 828,285 人で、平成 13 年 10 月 1 日から平成 14 年 9 月 30 日までの 1 年間に 217 人減少した。

人口増加率をみると、昭和 50 年代は 0.5%前後で推移してきたが、昭和 61 年以降は平成 2 年と平成 7 年の減少を除いて、0.1~0.3%と伸びが鈍化し、平成 12 年以降は 3 年連続で減少している。

自然増加をみると、出生数は終戦直後の昭和 22 年の 25,287 人をピークに減少し、ひのえうまの昭和 41 年には 9,062 人に急減した。第 2 次ベビーブームの昭和 48 年には 13,472 人に回復したが、その後は減少が続き、平成 6 年は 8,639 人で 5 年ぶりに前年を上回ったものの、その後は再び減少が続いており、平成 14 年の出生数は 7,922 人で前年と比べ 22 人の減少となった。一方、死亡者数は、平成 14 年は前年より 156 人多い 7,030 人で、この 1 年間の自然増加は 892 人となったが、平成 13 年に比べ 178 人減少している。

また、社会増加をみると、県外からの転入者は 15,954 人、県外への転出者は 17,063 人で、この 1 年間で 1,109 人減少し、平成 8 年以降は 12 年を除いて転出超過が続いている。

なお、全国総人口は 1 億 2,744 万人(総務省「人口推計」14 年 10 月 1 日現在)で、本県人口の占める割合は 0.65%、県内の人口密度は 1 km<sup>2</sup>当たり 198 人である。

図 1 総人口の推移

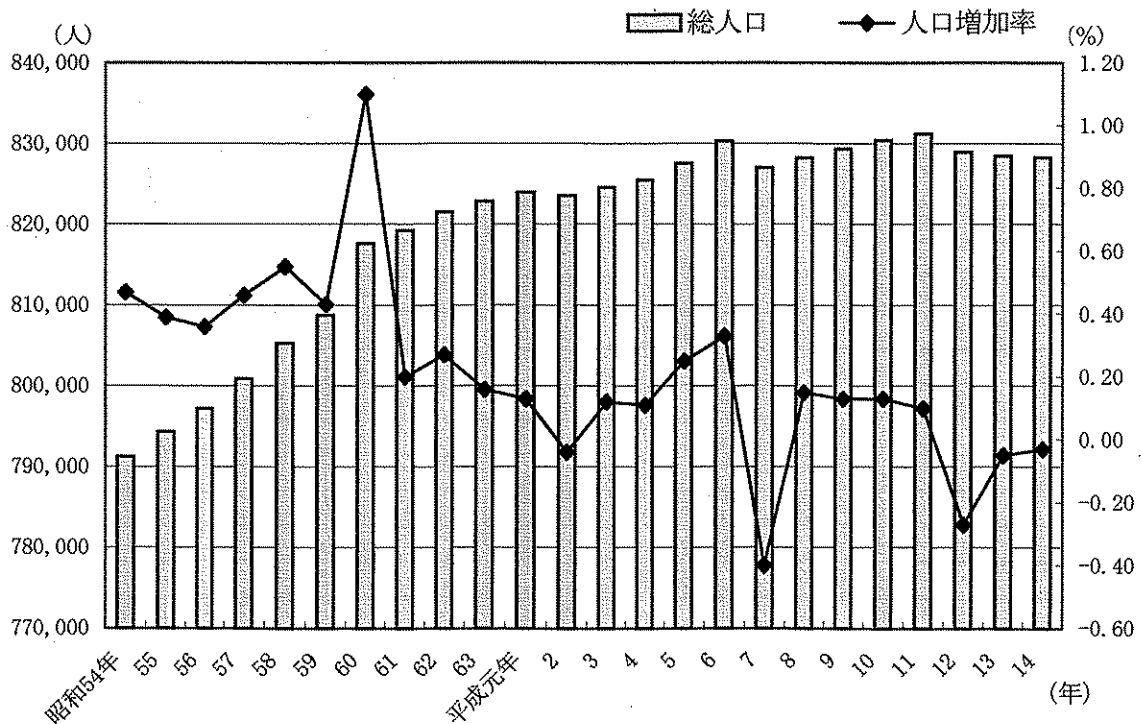


図2 自然増加数・社会増加数

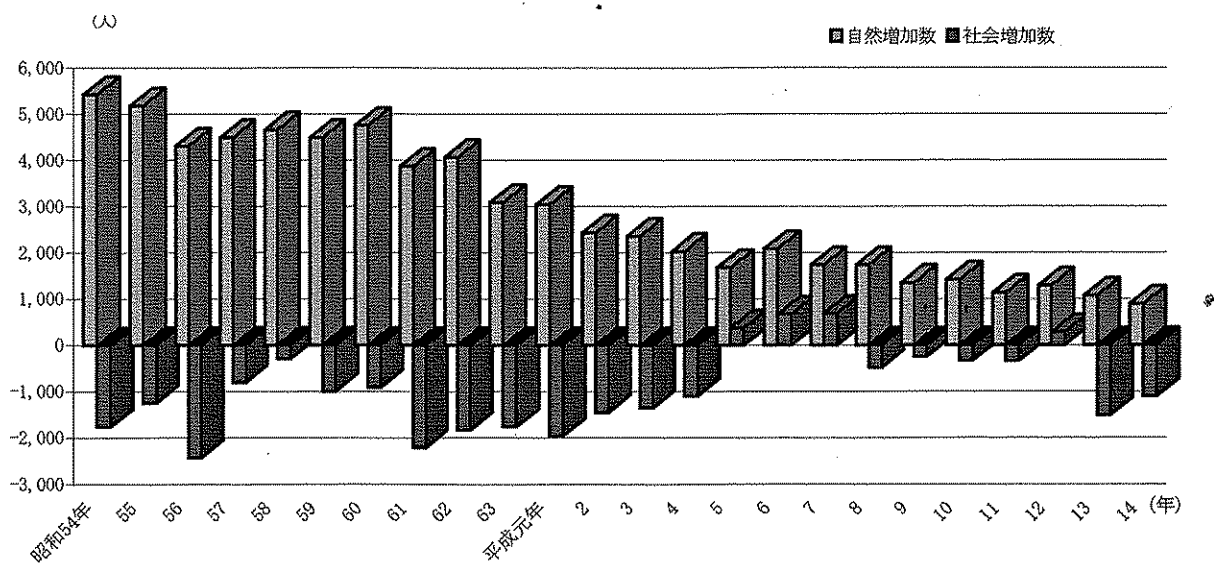


表1 人口の推移

(単位：人、%)

区分	総人口	人口増加数	人口増加率	自然増加数	社会増加数	外国人数
昭和54年	791,288	3,699	0.47	5,427	△ 1,759	
※55	794,354	3,066	0.39	5,179	△ 1,244	4,780
56	797,231	2,877	0.36	4,309	△ 2,432	
57	800,911	3,680	0.46	4,487	△ 807	
58	805,277	4,366	0.55	4,654	△ 288	
59	808,774	3,497	0.43	4,491	△ 994	
※60	817,633	8,859	1.10	4,749	△ 910	4,948
61	819,281	1,648	0.20	3,863	△ 2,215	
62	821,521	2,240	0.27	4,066	△ 1,826	
63	822,856	1,335	0.16	3,093	△ 1,758	
平成元年	823,943	1,087	0.13	3,044	△ 1,957	
※2	823,585	△ 358	△ 0.04	2,430	△ 1,453	5,257
3	824,581	996	0.12	2,355	△ 1,359	5,888
4	825,515	934	0.11	2,028	△ 1,094	6,588
5	827,560	2,045	0.25	1,673	372	7,379
6	830,317	2,757	0.33	2,086	671	7,848
※7	826,996	△ 3,321	△ 0.40	1,732	681	7,593
8	828,249	1,253	0.15	1,733	△ 480	7,886
9	829,344	1,095	0.13	1,346	△ 251	8,548
10	830,429	1,085	0.13	1,419	△ 334	9,091
11	831,222	793	0.10	1,135	△ 342	9,681
※12	828,944	△ 2,278	△ 0.27	1,287	276	9,861
13	828,502	△ 442	△ 0.05	1,070	△ 1,512	9,957
14	828,285	△ 217	△ 0.03	892	△ 1,109	10,389

【※は国勢調査年】

- (注)
- ・国勢調査年の総人口は調査時の常住人口であり、前年の推計人口に自然増加数および社会増加数を加えた数値とは一致しない。
  - ・平成元年の数値には、昭和63年10月～昭和64年1月分の数値を含む。
  - ・昭和56年までは県内の転入・転出者数をそれぞれ集計しているため、その差を人口増加数に加減している。昭和57年以降は県内の転入・転出者数は同数で扱っている。

図3 人口増加率・自然増加率・社会増加率

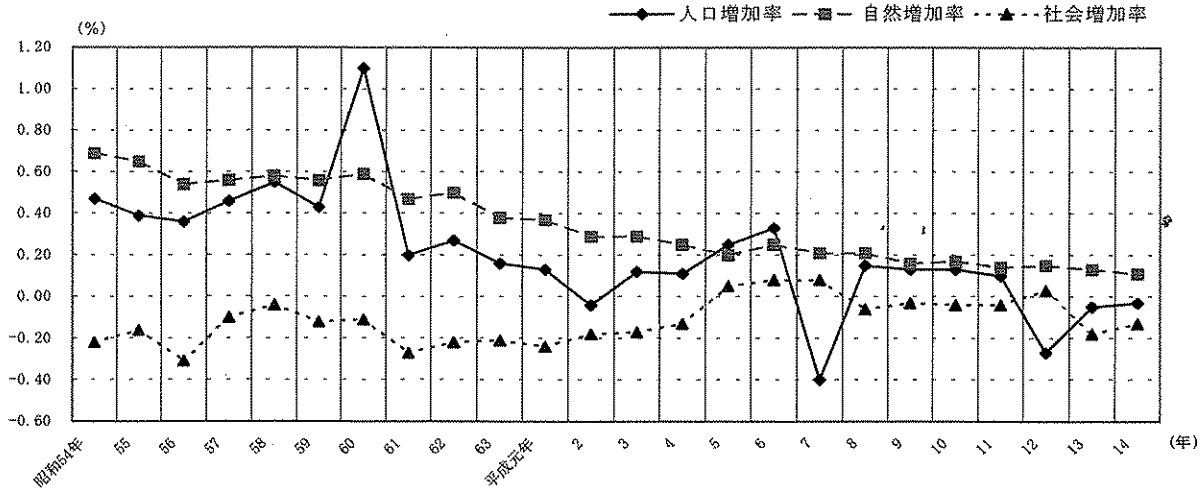


図4 月別社会増加数

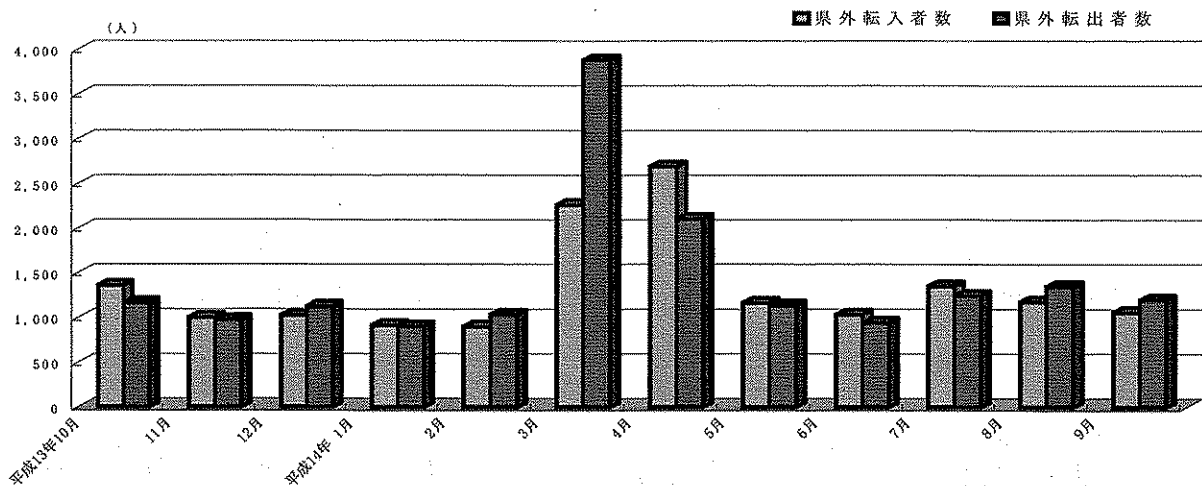


表2 月別人口の推移

(単位：人)

区分	対前月 増減数	出生数	死亡数	県外 転入者数	県外 転出者数	県内 移動者数
平成13年10月	346	738	586	1,360	1,166	1,132
11月	73	667	623	1,004	975	1,011
12月	△ 84	618	601	1,026	1,127	838
平成14年 1月	8	696	700	914	902	701
2月	△ 114	599	580	901	1,034	678
3月	△ 1,574	653	610	2,263	3,880	1,925
4月	668	638	556	2,692	2,106	1,517
5月	122	653	562	1,168	1,137	977
6月	166	605	529	1,034	944	830
7月	252	720	574	1,351	1,245	939
8月	△ 80	656	567	1,179	1,348	750
9月	0	679	542	1,062	1,199	814
合計	△ 217	7,922	7,030	15,954	17,063	12,112

## 2 年齢・男女別人口

### (1) 年齢5歳階級別人口

#### ひょうたん型の人口ピラミッド

福井県の人口ピラミッドをみると、昭和22年～24年の第1次ベビーブーム(53～55歳)までは若い年齢ほど人口が多い「富士山型」をしていたが、その後出生数が減少したため「つぼ型」に変化した。

しかし、昭和46～49年の第2次ベビーブーム(28～31歳)を終え出生数が再び減少しているため、「ひょうたん型」となっている。

人口を男女別にみると、男性が401,389人、女性が426,896人で、女性が男性より25,507人多く、人口性比(女性100人に対する男性の数)は94.0となっているが、35歳未満および45歳から54歳までの各年齢層では100を上回っており、それ以外の年齢層では100を下回っている。

生まれた年代別にみると、明治・大正生まれは65,178人(7.9%)、昭和生まれは645,756人(78.0%)、平成生まれは117,056人(14.1%)となっており、昭和・平成生まれが92.1%を占めている。

図5 男女別年齢5歳階級別人口

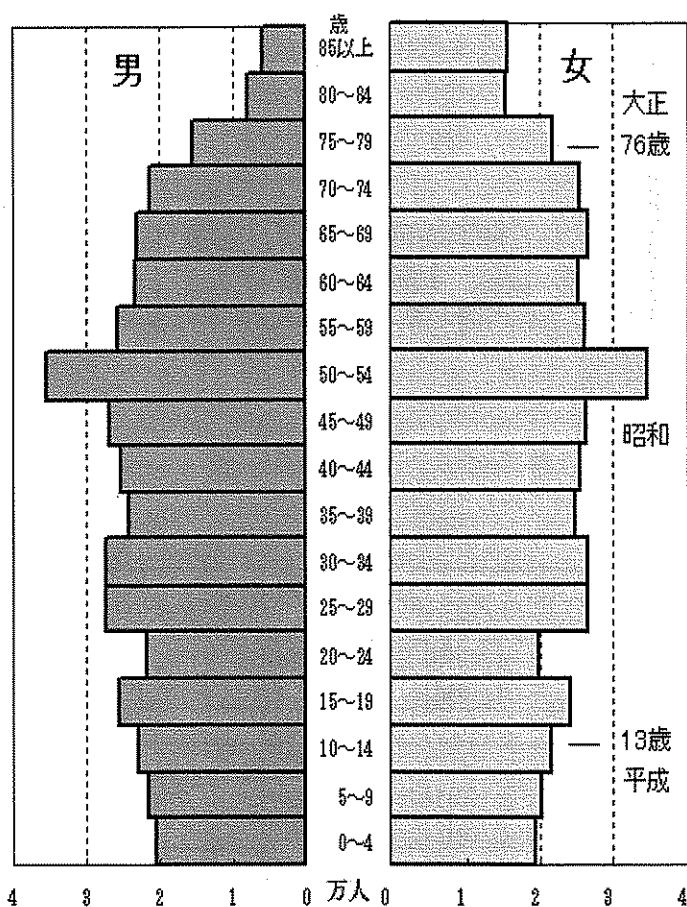


表3 男女別年齢5歳階級別人口

(単位:人)

区分	男	女	性比
0～4歳	20,355	19,565	104.0
5～9	21,547	20,379	105.7
10～14	22,866	21,617	105.8
15～19	25,550	24,236	105.4
20～24	21,639	19,962	108.4
25～29	27,367	26,762	102.3
30～34	27,236	26,744	101.8
35～39	24,325	24,793	98.1
40～44	25,434	25,560	99.5
45～49	26,850	26,310	102.1
50～54	35,164	34,627	101.6
55～59	25,812	26,015	99.2
60～64	23,523	25,289	93.0
65～69	22,933	26,647	86.1
70～74	21,360	25,544	83.6
75～79	15,350	21,857	70.2
80～84	7,954	15,335	51.9
85以上	5,910	15,573	38.0
計	401,389	426,896	94.0

(注) 年齢不詳 男214人、女81人を計に含む。

(2) 年齢階級（3区分）別人口

拡大を続ける老年人口の割合

総人口を年齢3区分別にみると、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）の割合が減少傾向にある反面、老年人口（65歳以上）の割合の増加が続いている。平成14年は、年少人口の割合が15.3%、生産年齢人口の割合が63.2%で、前年に比べてともに0.2ポイント減少する一方、老年人口の割合は、前年に比べて0.4ポイント増の21.5%と3年連続で20%台を超え、本県も本格的な高齢社会を迎えている。

また、人口の高齢化の程度を示す指数である老年化指数（年少人口に対する老年人口の比率）も、昭和30年代までは20台で推移していたが、平成7年に104.4と老年人口が初めて年少人口を上回った。その後も老年化指数は毎年5ポイント台の増加が続いており、平成14年は141.3と過去最高になるなど少子高齢化が急速に進行している。

図6 年齢構成別人口の推移

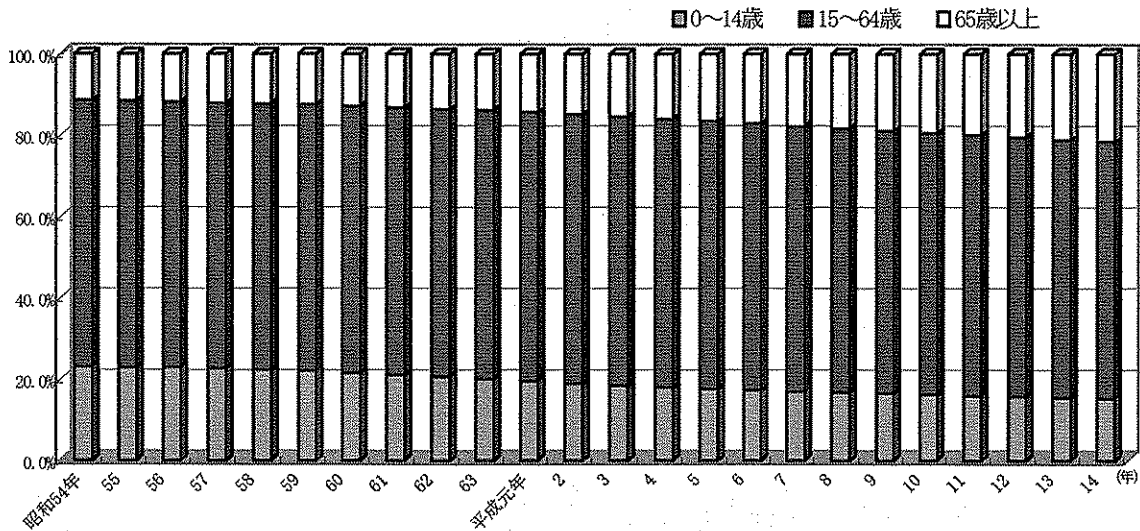


表4 年齢構成別人口の推移

(単位：人、%)

区分	年齢構成別人口			構成割合			老年化指数
	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上	
平成2年	155,998	545,297	121,940	18.9	66.2	14.8	78.2
824.587 3	152,112	545,414	127,055	18.4	66.1	15.4	83.5
4	148,626	545,024	131,865	18.0	66.0	16.0	88.7
5	145,617	545,144	136,799	17.6	65.9	16.5	93.9
6	143,479	544,816	142,022	17.3	65.6	17.1	99.0
7	140,593	539,592	146,728	17.0	65.2	17.7	104.4
8	138,624	537,615	151,927	16.7	64.9	18.3	109.6
9	136,966	535,779	156,516	16.5	64.6	18.9	114.3
10	134,951	534,162	161,233	16.3	64.3	19.4	119.5
11	132,658	533,185	165,296	16.0	64.1	19.9	124.6
12	130,143	529,017	169,489	15.7	63.8	20.4	130.2
13	128,279	525,455	174,473	15.5	63.4	21.1	136.0
14	126,329	523,198	178,463	15.3	63.2	21.5	141.3

(注) 平成8年以降は、年齢不詳を年齢構成別人口に含めていない。

### 3 世帯数

総世帯数は 264,393 世帯

福井県の総世帯数は 264,393 世帯で、前年に比べ 2,548 世帯 (1.0%) 増え、年々増加しているが、1世帯当たり人員は 3.13 人と前年より 0.03 人減少しており、毎年核家族化が進行している。

図 7 世帯数の推移

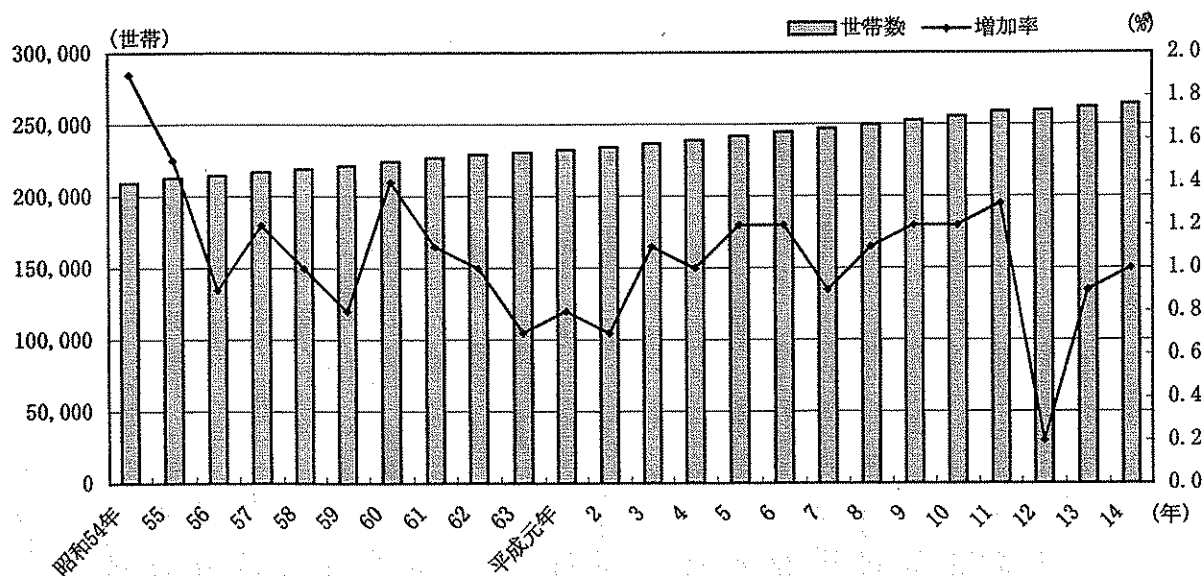


表 5 世帯数の推移

区 分	世 帯 数	増 加 数	増 加 率	1世帯当人員
昭和54年	209,515	3,913	1.9	3.78
※ 55	212,744	3,229	1.5	3.73
56	214,558	1,814	0.9	3.72
57	217,200	2,642	1.2	3.69
58	219,294	2,094	1.0	3.67
59	221,146	1,852	0.8	3.66
※ 60	224,295	3,149	1.4	3.65
61	226,695	2,400	1.1	3.61
62	229,037	2,342	1.0	3.59
63	230,665	1,628	0.7	3.57
平成元年	232,532	1,867	0.8	3.54
※ 2	234,192	1,660	0.7	3.52
3	236,662	2,470	1.1	3.48
4	238,960	2,298	1.0	3.45
5	241,868	2,908	1.2	3.42
6	244,821	2,953	1.2	3.39
※ 7	246,911	2,090	0.9	3.35
8	249,750	2,839	1.1	3.32
9	252,714	2,964	1.2	3.28
10	255,684	2,970	1.2	3.25
11	259,040	3,356	1.3	3.21
※ 12	259,612	572	0.2	3.19
13	261,845	2,233	0.9	3.16
14年	264,393	2,548	1.0	3.13

【※は国勢調査年】

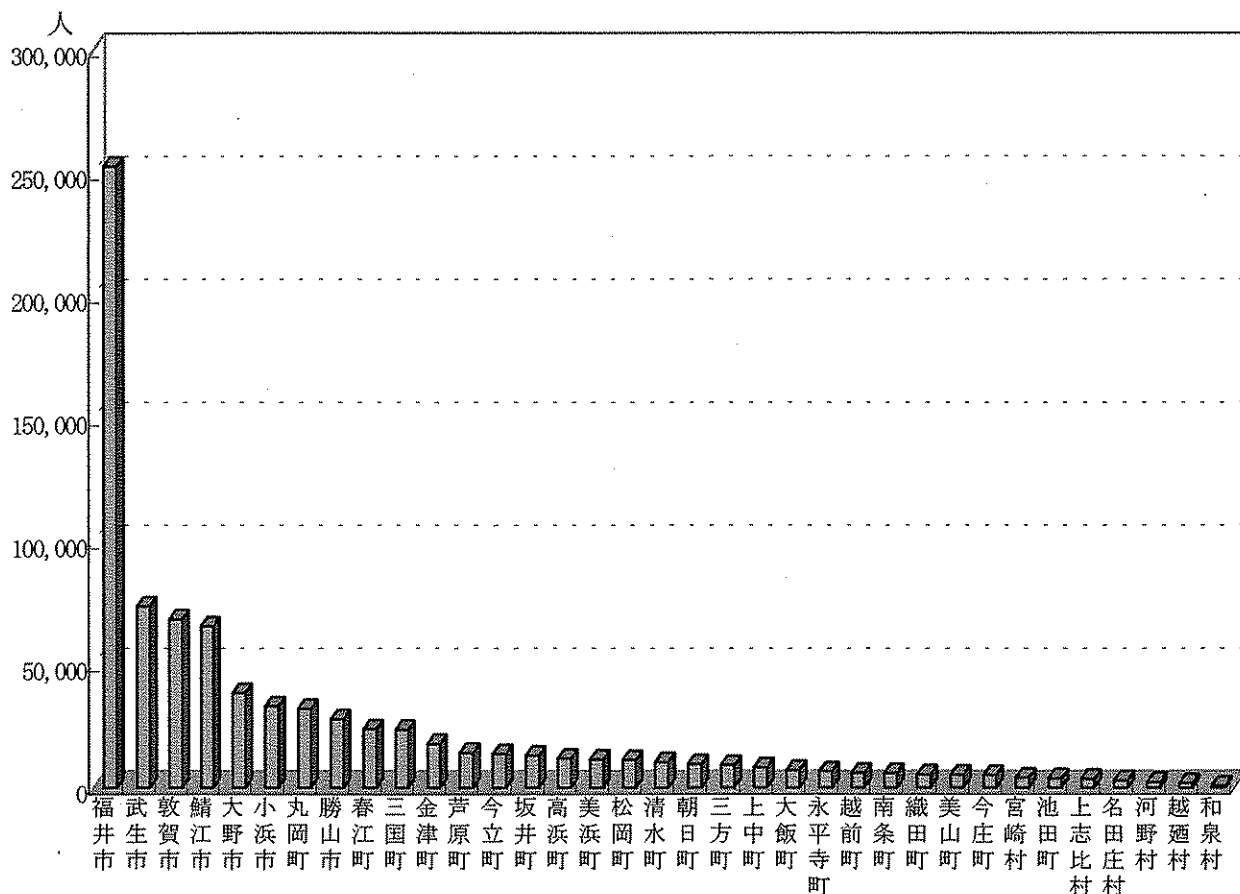
#### 4 市町村人口

##### (1) 人口……福井市は県人口の3割

市町村人口は、福井市の252,617人が最も多く、県全体の30.5%を占める。ついで、武生市73,630人、敦賀市68,390人、鯖江市65,568人の順となっており、町村では丸岡町が32,103人で最も多く、次に春江町の23,668人、三国町の23,512人が続いている。

また、市部と町村部の人口の構成比は67.5%と32.5%で、ほぼ同率で推移している。

図8 市町村人口



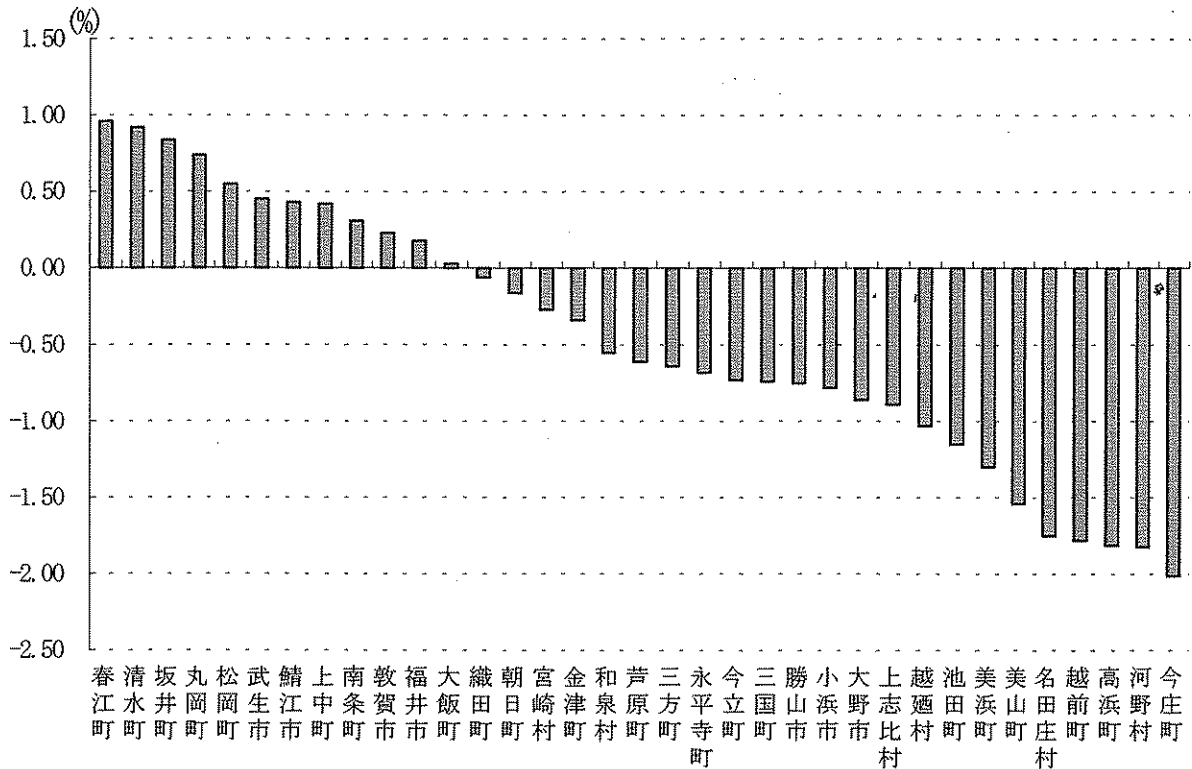
##### (2) 人口密度……人口密度が最も高い春江町

面積1k㎡当たりの人口密度は、春江町が969人で最も高く、ついで鯖江市の774人、福井市の742人が続く。最も低いのは和泉村の2人で、ついで池田町の19人、名田庄村の20人となっている。

##### (3) 人口増加……人口増加率が最も高い春江町

人口増加率は、春江町が0.96%で最も高く、ついで清水町の0.92%、坂井町の0.84%と続く。全市町村のうち、前年と比べ増加したのは12市町村、減少したのは23市町村となっている。

図9 人口増加率



(4) 自然増加………自然増加率が最も高い春江町

自然増加率は、春江町が 0.48%で最も高く、ついで丸岡町、鯖江市、清水町の 0.34%となっている。

出生率は、高浜町が 1.15%で最も高く、ついで鯖江市の 1.14%、春江町の 1.13%の順となっている。最も低いのは池田町の 0.48%で、ついで美山町の 0.57%、今庄町の 0.61%である。

死亡率は、名田庄村が 1.34%で最も高く、ついで美山町 1.31%、池田町 1.24%となっており、最も低いのは、春江町の 0.65%、ついで永平寺町の 0.71%、清水町、宮崎村の 0.72%となっている。

自然増加がプラスとなっているのは、4市10町1村で全市町村の 42.9%である。

(5) 社会増加………社会増加率が最も高い清水町

社会増加率は、清水町が 0.58%で最も高く、ついで上中町の 0.55%、坂井町の 0.52%の順となっている。

社会増加がプラス（転入超過）となっているのは2市8町で全市町村の 28.6%である。

また、市町村間の移動数は 12,112 人で昭和 47 年の 14,462 人をピークに減少傾向にあったが、平成 3 年から 9 年まで増加し、その後は 12 年以外再び減少している。



图 10 自然增加率

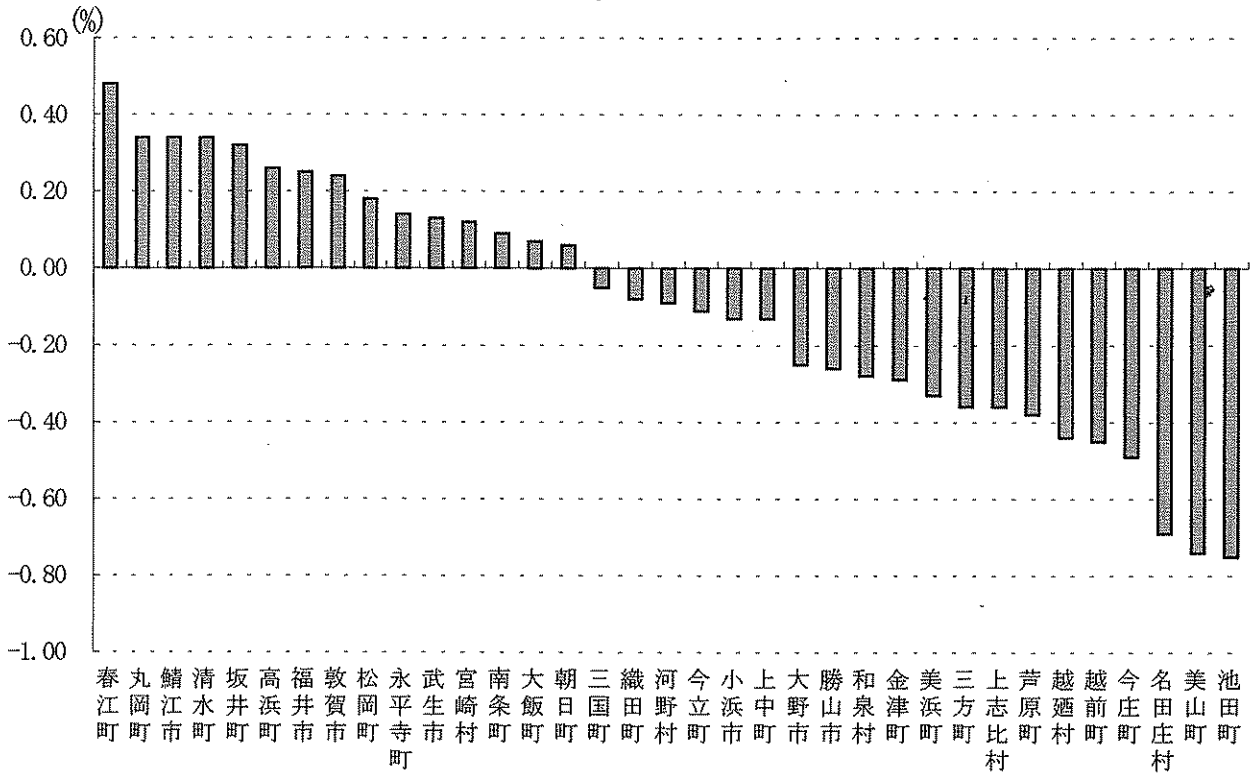
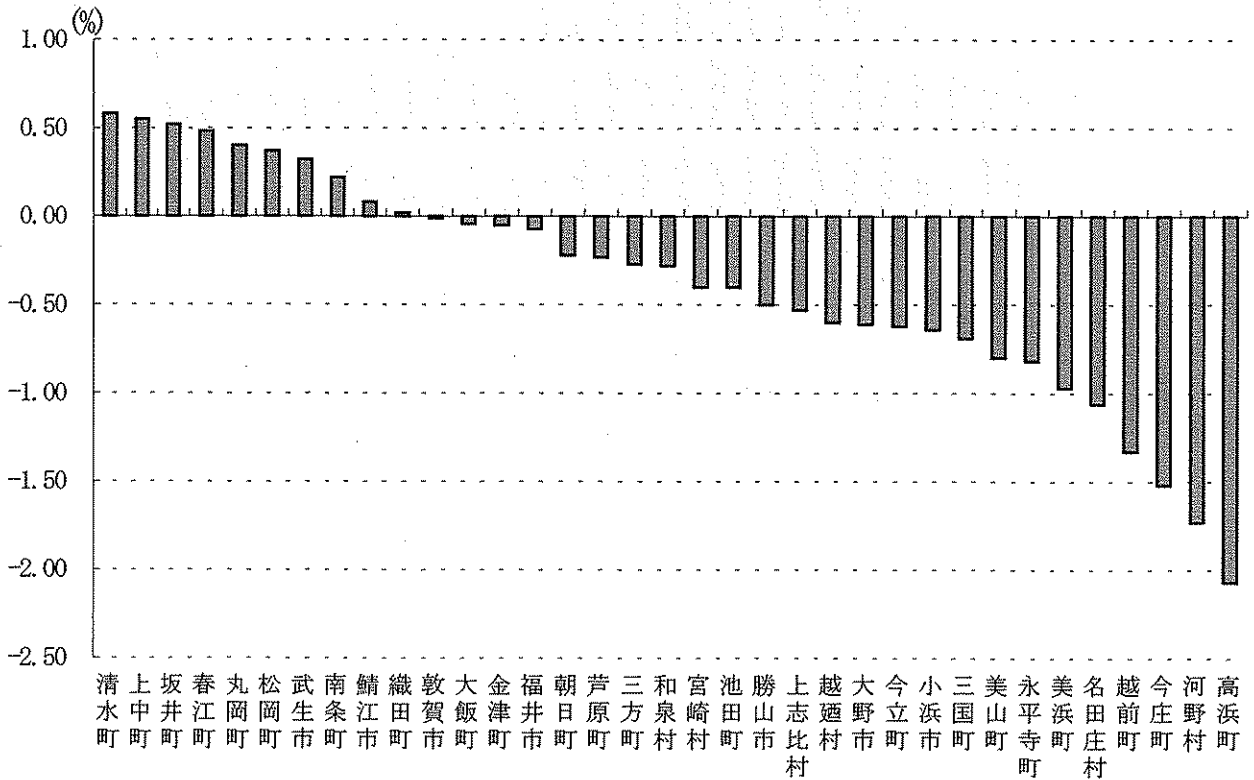


图 11 社会增加率



(6) 年齢階級（3区分）別人口

15歳未満の年少人口の割合が最も高いのは、丸岡町の17.51%で、ついで春江町の17.24%、坂井町の17.12%の順で、最も低いのは、越廼村の10.07%、ついで美山町の11.71%、和泉村の12.36%となっている。

15～64歳未満の生産年齢人口の割合が最も高いのは、松岡町の65.66%で、ついで福井市の65.32%、春江町の64.85%となっている。最も低いのは、池田町の50.10%で、ついで今庄町の55.86%、名田庄村の55.90%となっている。

65歳以上の老年人口の割合が最も高いのは、池田町の36.62%で、ついで和泉村の31.67%、美山町の31.55%となっている。最も低いのは、春江町の17.91%で、ついで丸岡町の18.20%、鯖江市の19.41%である。

老年化指数（年少人口に対する老年人口の比率）が最も高いのは、越廼村の298.36で、ついで池田町の275.66、美山町の269.31となっている。最も低いのは、春江町の103.92で、ついで丸岡町の103.93、鯖江市の121.88となっている。

図 12 年齢階級（3区分）別人口

